

学会彙報

第四七回 山口大学人文学部国語国文学会研究発表会

二〇二二年五月八日(日)

読書と伝承…昔話による生活文化の伝承について 伊 東 達 也

三島由紀夫と『オール讀物』

—〈無視されてきた作品群〉を読む— 中 元 さおり

第三六回 山口大学人文学部国語国文学会研究懇話会

(卒業論文発表会)

二〇二三年二月四日(土)

転化する歌と付与する手紙 —道綱母の思惑— 水 田 翔 吾

『浄瑠璃御前物語』十六段本考

大手拓次の詩における蛇 紀 実 歩

翻訳映画における女ことばの文末表現

—字幕に注目して— 橋 本 萌 花

山口方言「ソ」「ホ」について

高 原 愛 梨

二〇二二年度講義題目

大学院

日本語論(古代語) 安 本 真 弓

日本語論(現代語) 和 田 学

日本語論演習(古代語研究) 安 本 真 弓

日本語論演習(古代語文献講読) 安 本 真 弓

日本語論演習(現代語研究)

日本語論演習(現代語文献講読)

日本文学論(中古)

日本文学論(近世)

日本文学論(近代)

日本文学論(近現代)

日本文学論演習(中古文学研究)

日本文学論演習(中古文学講読)

日本文学論演習(近世文学研究)

日本文学論演習(近世文学講読)

日本文学論演習(近代文学研究)

日本文学論演習(近代文学講読)

日本文学論演習(近現代文学研究)

日本文学論演習(近現代文学講読)

学部

日本語学概説(古代語)

日本語学概説(現代語)

日本語史

日本語学特殊講義(古代語)

日本語学特殊講義(現代語)

日本語学基礎講読(古代語)

日本語学基礎講読(現代語)

日本語学基礎講読(現代語)

日本語学発展講読(現代語)

和 田 学

和 田 学

森 野 正 弘

尾 崎 千 佳

野 坂 昭 雄

中 元 さ お り

森 野 正 弘

森 野 正 弘

尾 崎 千 佳

尾 崎 千 佳

野 坂 昭 雄

野 坂 昭 雄

中 元 さ お り

中 元 さ お り

安 本 真 弓

和 田 学

安 本 真 弓

安 本 真 弓

和 田 学

安 本 真 弓

安 本 真 弓

和 田 学

和 田 学

日本語学演習 (古代語)	安本真弓	日本文学卒論基礎演習	森野正弘
日本語学演習 (現代語)	和田学	日本文学卒論発展演習	森野正弘
日本語学卒論基礎演習	安本真弓	日本文学卒論基礎演習	尾崎千佳
日本語学卒論発展演習	安本真弓	日本文学卒論発展演習	尾崎千佳
日本語学卒論基礎演習	和田学	日本文学卒論基礎演習	野坂昭雄
日本語学卒論発展演習	和田学	日本文学卒論発展演習	野坂昭雄
日本文学史 (中古)	森野正弘	日本文学卒論発展演習	野坂昭雄
日本文学史 (近世)	尾崎千佳	日本文学卒論発展演習	野坂昭雄
日本文学史 (近代)	野坂昭雄	二〇二二年度卒業論文題目	
日本文学特殊講義 (中古)	森野正弘	日本語学・日本文学分野	
日本文学特殊講義 (近世)	尾崎千佳	指導教員 和田学	
日本文学特殊講義 (近現代)	中元さおり	音韻構造からみたオノマトペ	川上颯斗
日本文学基礎講読 (中古)	森野正弘	山口方言「ソ」「ホ」について	高原愛梨
日本文学基礎講読 (近世)	森野正弘	播州方言の特徴とその使用実態	高松龍人
日本文学基礎講読 (近現代)	尾崎千佳	大学生の挨拶表現「お疲れ様」の使用実態と意識	中尾美友
日本文学発展講読 (近代)	尾崎千佳	長崎方言における目的格助詞「の」「ば」の使用差	牟田裕平
日本文学発展講読 (近世)	野坂昭雄	指導教員 安本真弓	穴井稜子
日本文学発展講読 (近現代)	野坂昭雄	「大丈夫」の新用法についての研究	末安琴
日本文学演習 (中古)	中元さおり	「かなし」の通史的研究	筒井裕稀
日本文学演習 (近世)	森野正弘	クッション言葉の傾向と分析	中村梨乃
日本文学演習 (近代)	尾崎千佳	— ビジネスの場と大学生用の比較を通じて —	
日本文学演習 (近現代)	野坂昭雄	翻訳映画に見られる女ことばの文末表現	橋本萌花
日本文学演習 (近現代)	中元さおり	— 字幕に注目して —	

佐賀県の方言語彙研究

—西部地区の若年層を中心に—

山口 大雅

指導教員 野坂 昭雄

川端康成「古都」

—三度の映画化から見る日本のふるさと観—

石橋 あかり

指導教員 森野 正弘

『とりかへばや物語』における「らしさ」のパラダイムからの脱却

古賀 菜々美

梶井基次郎「檸檬」の研究

川本 悠介

はやみねかおる作品における児童文学観と幻想性

藤井 唯

太宰治「道化の華」論

相江 青

『源氏物語』の求愛表現に関する研究

下岡 美優

有川浩『旅猫リポート』における語りと主題

沖元 美月

—光源氏の「まめ」をめぐる—

中村 真惟子

大手拓次の詩における蛇

片平 海帆

—紫の上の出家をめぐる—

転化する歌と付与する手紙

水田 翔吾

小川未明童話における動物とは何か

河村 友里乃

—道綱母の思惑—

伊勢物語における「男」の彷徨

向井 統基

—戦争とへからず—の関わりを中心に

大王 龍哉

—退廃への傾斜—

虚構世界から抽出する音楽の力

村田 佳乃子

村上春樹「ノルウェイの森」論

西村 康佑

啄木短歌における死の表現の推移について

原口 日菜

—越境する音に導かれて—

指導教員 尾崎 千佳

紀 実歩

京極夏彦『姑獲鳥の夏』に見る母親

堀淵 望瑛

遠藤周作『悲しみの歌』論

松本 恵利佳

—罪意識の違いと罪の変化—

『浄瑠璃御前物語』十六段本考

野 笹 万里奈

綾辻行人の館シリーズにおける館の扱い方とその遷移

村上 凜

『雨月物語』「青頭巾」の主題

野 笹 万里奈

—院主の執着を中心に—

安井 義洋

『奥の細道』推敲考

松村 奈緒

中原中也の作品における空間表現について

吉岡 美優

正岡子規における字余り論の形成

宮田 渉

『万葉集』の「寒し」

吉原 百香

吉原 百香

執筆者紹介

寺本 旭 二〇二二年卒業
中元 さおり 山口大学人文学部
伊東 達也 山口大学人文学部
林 伸一 特別会員、山口大学名誉教授
徳 永光展 一九九〇年卒業、福岡工業大学
楢村 知美 特別会員

二〇二二年度学会委員・会計監査

代表委員 和田 学

実行委員 安本 真弓(庶務・会計) 中元さおり(編集)

綾野 爽永(3年) 吉本 一稀(3年)

委員 森野 正弘 尾崎 千佳

野坂 昭雄 伊東 達也

中原 豊(一九八二) 金戸 清高(一九八二)

大田 直子(二〇〇三院) 末裕 昌子(二〇〇六院)

日高 友江(二〇〇六院)

佐々木翔太郎(二〇一〇院)

会計監査 奥嶋 明子(一九九二) 吹屋 葉子(二〇〇四院)

○編集後記

『山口国文』第四六号をお届けいたします。本号には、昨年度の研究懇話会(卒業論文発表会)での口頭発表をもとにした論文一本、五月の研究発表会での口頭発表をもとにした論文二本のほか、投稿論文二本、トークルーム二本を掲載しております。学外の先生方などからのご投稿により、多岐にわたる論文を纏めることができ、学会誌にふさわしいものとなりました。ご投稿くださいました方々に、厚く御礼申し上げます。今後は会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

今年度は対面授業が復活し、吉田キャンパスも少しずつにぎやかな様子を取り戻しつつあります。姫山祭も昨年十一月に対面方式で久しぶりに開催されました。感染対策の徹底や入場制限などが設けられ、かつての光景とは異なると思いますが、学生にとってはようやく大学生活を実感できる一年になったことと思います。お互いに顔を合わせて関係性を築いていくことの大切さに改めて気づいた一年となりました。今後はオンラインの利点も引き継ぎつつ、新たな形での教育と研究の場が展開するものと期待しております。

今年度の研究発表会と研究懇話会は、両方とも対面方式にて開催いたしました。研究懇話会では、各ゼミの代表一名ずつが卒業論文をもとにした発表をおこない、活発な質疑応答がなされました。ここ数年はコースやゼミでの活動も制限されてきましたが、学会らしい肌で感じることできた有意義な時間となりましたことをご報告いたします。研究発表会、研究懇話会につきましても、今後も皆様に広くご参加いただけますと幸いに存じます。

会員の皆様のご健康とご活躍を願いますとともに、本学会のさらなる充実に向け、ご支援を引き続きお願い申し上げます。

【山口国文】編集部